

『建築職 総まとめ講座 構造力学』(KU16263) 訂正表

2017年4月26日現在

ページ	訂正箇所	訂正内容		掲載日
		誤	正	
P. 21	[No. 11] 問題文 4行目	なお、 <u>最大せん断応力</u> については、テキスト本文の公式を参照せよ。	なお、 <u>最大せん断応力</u> $\tau_{\max} = \frac{3Q}{2A}$ として計算せよ。	2017/4/26
P. 29	[No. 5] 2つ目の図			2017/3/10
P. 36	[No. 11] 解説 4行目	せん断力は荷重の位置によって変わらないので、荷重がA点のときのA点で安全性を検討すればよい。 <u>テキストの公式より</u> ， $\tau_{\max} = \frac{3V}{2A} = \frac{1500}{2 \times 0.1 \times 0.05} = 15 \times 10^4 \text{ Pa} = 0.15 \text{ MPa}$	せん断力は荷重の位置によって変わらないので、荷重がA点のときのA点で安全性を検討すればよい。 <u>問題文の公式より</u> ， $\tau_{\max} = \frac{3Q}{2A} = \frac{3 \times 500}{2 \times 0.10 \times 0.05} = 0.15 \times 10^6 \text{ Pa} = 0.15 \text{ MPa}$	2017/4/26
P. 36	[No. 20] 解説文	断面積 A は、 $A = 30 \times 10 + 10 \times 30 = 600 \text{ cm}^2$ である。したがって、図心の y 座標を y とおくと、 $600y = 300 \times 5 + 300 \times (-15) = -3000$ $\therefore y = -5$	断面積 A は、 $A = 30 \times 10 + 10 \times 20 = 500 \text{ cm}^2$ である。したがって、図心の y 座標を y とおくと、 $500y = 300 \times 5 + 200 \times (-10) = -500$ $\therefore y = -1$	2017/4/26
		正 解 -5	正 解 -1	
P. 42	[例題3] 図 2.6 (b)			2017/3/10
P. 126	[No. 6]	柱Xについて 座屈は弱軸まわりに起こるので、弱軸まわりの断面2次モーメント I を求めると、 $I = \frac{2a \times a^3}{12} = \frac{a^4}{6}$ また、一端固定、他端ピンの部材であって、ヤング係数 E 、長さ $2L$ なので、求める座屈荷重 P_X は、 $P_X = \frac{2\pi^2 E}{0.5 \times (2L)^2} \times \frac{a^4}{6} = \frac{\pi^2 E a^4}{6L^2}$	柱Xについて 座屈は弱軸まわりに起こるので、弱軸まわりの断面2次モーメント I を求めると、 $I = \frac{2a \times a^3}{12} = \frac{a^4}{6}$ また、一端固定、他端ピンの部材であって、ヤング係数 E 、長さ $2L$ なので、求める座屈荷重 P_X は、 $P_X = \frac{\pi^2 E}{0.5 \times (2L)^2} \times \frac{a^4}{6} = \frac{\pi^2 E a^4}{12L^2}$	2017/1/20

※「掲載日」は、上掲訂正情報がLECホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』(<http://www.lec-jp.com/koumuin/kaitei>)に掲載された日付です。